

探訪 ザカバニ

(岡山県久米郡)

アンテック

備前焼の窯たきで、薪をくべるタイミングや必要な薪の本数を知らせる温度計、ガスの炎が消えれば自動的に元栓を閉める停止装置…。陶芸支援の電子機器など開発のアンテックは「世の中にならぬものを作り出す」がキーワードの開発型ベンチャー企業。

末石建二社長(四三)は、かつて岡山県内の福祉機器メーカーで開発に従事。「企業の中にとどまるのではなく、一人の技術者として製品開発を続けたい」と一九九一年独立。九七年に法人化した。温度計の開発は、脱サ

陶芸関連機器などを開発するベンチャー企業のアンテック



末石建二社長

ラして間もないころ、友をくべる重労働。「作業を人の備前焼作家の窯たきを手伝ったのがきっかけ。窯たきは十日以上連続で、昼夜を問わず薪をラして間もないころ、友をくべる重労働。「作業を人の備前焼作家の窯たきを手伝ったのがきっかけ。窯たきは十日以上連続で、昼夜を問わず薪を

メモ
所在地 岡山県久米郡豆田(電業内容 陶芸関連の電子機器設計・開発 話0869922155)▽設立 1997年▽資本金 1000万円▽事業 4人 約8000万円▽従業員

陶芸支援の電子機器次々 火災検知も センサー

次々に開発。陶芸関連製品は二十機種に上る。特に、液晶タッチパネル式の電気窯制御装置は操作が分かりやすく、リハビリに陶芸を活用する福祉施設や、クラブ活動のある学校など全国に販路を広げている。

今後の主力製品にと期待を込めるのが、ライタ―などの小さな炎も検知できる高性能の小型センサー。炎に含まれる紫外線と、大気の影響で絶えず変動する太陽光の紫外線を識別。屋外でも設置でき、初期火災の発見に役立つため、大手防犯機器メーカーや神社などの関心も高い。

三月には、火災を検知し携帯電話に知らせる簡易通報装置を共同開発。市場への投入も始まった。「センサーの実演を一度でも見てもらえば、性能の高さを分かってもらえるはず」。末石社長は、新たな自社製品に自信を見せる。